

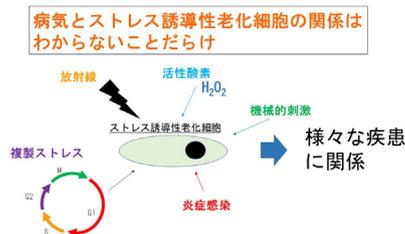


2030年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を促進する。

ストレス誘導性老化 (SIPS) 細胞の機能解明で 多くの人の病気を治療 (予防) する

老化というと、年をとった老化をイメージすると思いますが、実は若い人の体の中にも、ある一定のストレス環境下で細胞老化が起こり、老化細胞(ストレス誘導性老化細胞といえます)が出現します。

近年、この老化細胞が周囲の組織に対し悪影響を与え、様々な病気において重要な役割を担っていることがわかってきましたが、歯科での役割については殆どわかっていません。現在、同細胞の誘導メカニズムや、生体内挙動の解明を精力的に進めています。同機序の解明を通して、SDGsへ貢献できればと考えます。



message

非感染症や生活習慣病はすべての人々に起こりうる世界的に重要な検討課題となっています。これまで大きく着目されてこなかったストレス誘導性老化細胞の機能解明を掘り下げ、全ての人の健康増強に貢献ができればと考えています。

本田 義知

歯学部

口腔解剖学講座